

生活応援だより～種まきの基本

元気に育てて、美しく咲かせましょう!!

種まきには春蒔きの種類と秋蒔きの種類があります。春蒔きの種類は熱帯の種類が多く、夏の暑さに強いのですが、冬の寒さに弱い種類が多いです。秋蒔きはヨーロッパなどの涼しい地域に生息している種類が多く、冬の寒さに強いですが、夏に暑さに弱い種類が多いです。秋蒔きの種類は寒さに強いとはいえ、雪が積もるような厳しい寒さには耐える事ができない種類が多いので、寒地での秋蒔き用の種は春に蒔く事が多く、種を購入すると暖地の種蒔き時期と寒地の種蒔き時期が分けられて記載されています

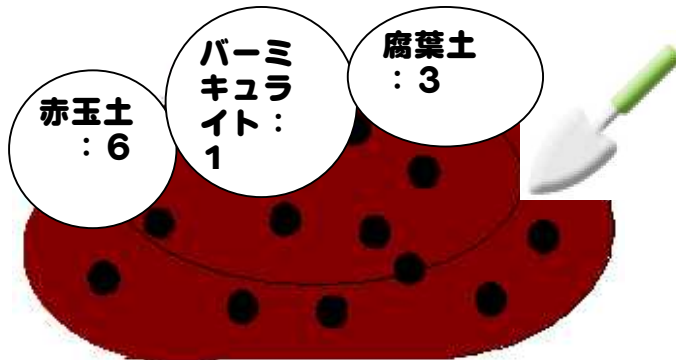
種まきの種類

たねをまくには、直まき、床まき・箱まき、ポリポットまきの3つの方法があります。たねや草花の性質、育てやすさなどを考えて、3つの方法を使い分けます。

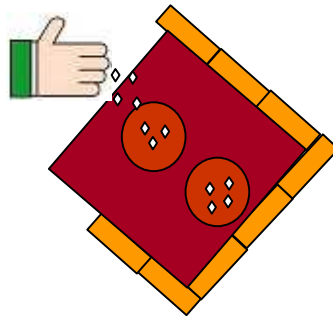


直まき

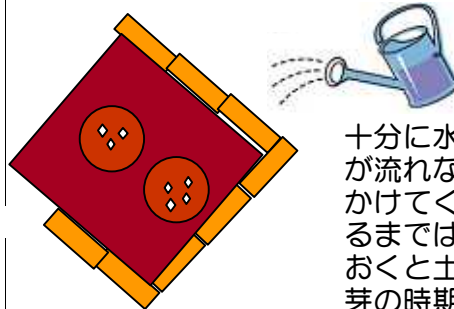
草花を育てる場所に直にたねをまくこと。おもに、直根性で移植を嫌う草花のたねまき法です。花壇への直まきだけでなく、プランターやコンテナへの直まきも含めます。また、大きいたねは発芽がスムーズな上に、移植に弱いので直まきがふつう。発芽率がよく、強健な草花の場合も、移植の手間をはぶくためにこの方法を使うことがあります。



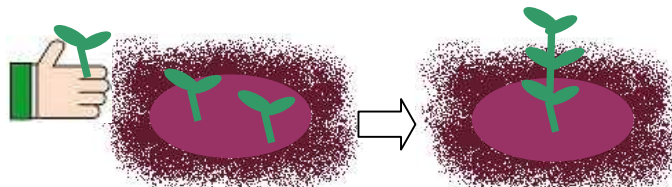
赤玉土の小粒6:腐葉土3:バーミキュライト1の割合で混合したものを用土に使ってもよいでしょう



土は種まきの1週間前によく耕しておきます。種は20cm間隔で3～5粒まいていきます。それから土を掛けておくか、種を薄くばらまき覆土します。



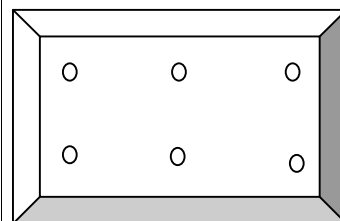
十分に水を与えます。種が流れないようにそっとかけてください。発芽するまでは新聞紙をかけておくと土が乾燥せず、発芽の時期が揃います。



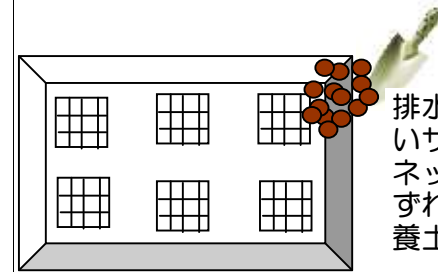
発芽したら、生育に応じて適当な間隔で間引きします。



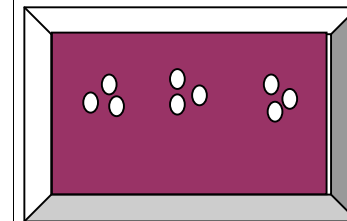
箱まき



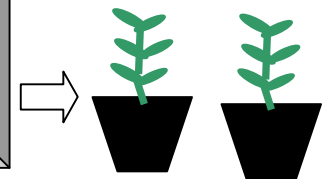
発砲スチロールの箱にはさみの先端で排水用の穴をあけます。数箇所にあけます。



排水溝の穴に穴より大きいサイズに切った鉢底ネットを置き、ネットがずれないように市販の培養土を入れます。



土を平らにならしてから種をまきます。種の上に薄く土をかぶせます。指で種の表面を押さえ土と密着させます。その後十分に水を与えます。



発芽したら、日当たりのよい場所に移します。土の表面が乾いたら、たっぷりと水を与えましょう。また、葉が数枚出てきて苗がしっかり生長してきたら1～2本ずつポットなどに植え替えます。

☆発芽までの管理☆

発芽するまでは日陰に置き、新聞紙などをかぶせて霧吹きで水を掛けておくなど、乾燥させないようにしましょう。発芽したら新聞紙を取り除いて十分に日を当てます。種が呼吸しやすいように覆土は薄めにし、発芽するまでは水を切らさないようにしましょう。